2010年度　腎尿路系Ⅱ 本試験

 2011.1.17

1 血液透析について正しいものを２つ選べ。

a 透析患者の原因で最も多いのは腎硬化症である。

b 透析患者は年間約1万人ずつ増えている。

c バイパス術は橈骨動脈と橈側皮静脈を吻合する。

d ダイアライザー内の血液の流れと透析液の流れと同じである。

e ダイアライザーには毎分１０００ml以上の血液量を流れる。

2 腹膜透析について正しいものを２つ選べ。

a 原理は拡散と浸透圧による限外濾過である。

b 透析がゆっくり行われるので、不均衡症候群が起こりにくい。

c 透析液のアルブミンをいれる。

d 四肢麻痺の寝たきりの人や、認知症の人に適応である。

e 透析液の腹腔内に大量にいれるので、心機能の弱い人には用いることができない。

3 免疫抑制剤について、正しいものを2つ選べる。

a HLA型の適合していない人には、ステロイドパルス療法を用いることができない。

b ヘルパーT細胞癌を活性化させて、急性拒絶反応を抑制する。

c 免疫抑制剤を多量に使用すると、細菌、真菌、ウィルス感染症を起こす。

d 副作用が抑えるため、複数の薬剤を併用する。

e 代謝拮抗薬の副作用で、高脂血症、高血糖、高血圧を抑制する。

4 尿路感染症について正しいものを選べ。

a 急性尿道炎の特徴は発熱である

b 尿路結核の特徴は無菌性能尿である

c 急性前立腺炎は性感染で波及しない。

d クラミジアによる尿道炎は抗ウイルス剤を用いる。

e 単純性膀胱炎は基礎疾患

5 膀胱がんの組織型を2つ選べ。

a 顆粒細胞癌

b 尿路上皮癌

c 淡明細胞癌

d 扁平上皮癌

e 紡錘細胞癌

6 尿路結石においてX線透過性のある（X線陰性）なのはどれか、以下のうちから2つ選べ。

a リン酸マグネシウムアンモニウム結石

b シュウ酸カルシウム結石

c キサンチン結石

d サンゴ状結石

e 尿酸結石

7 腎腫瘍について正しいのはどれか？

a 腎盂癌の多くは扁平上皮癌である。

b 腎細胞癌は糸球体を発生墓地とする。

c 腎血管筋脂肪腫は結節性硬化症に合併しやすい。

d 腎細胞癌に対する根治的腎摘出術では、尿管を完全に摘出する。

e 腎の充実性腫瘍のうち、悪性腫瘍の占める割合は約50％である。

8 尿路損傷について正しいのはどれか？

a 膜様部尿道損傷は骨盤骨折を伴うことが多い。

b 腎外傷の大部分は緊急開腹手術の適応となる。

c 腎外傷の重症度診断には、超音波診断が有用である。

d 膀胱損傷の多くは、排尿後の下腹部打撲が原因である。

e 球部尿道損傷では、受傷早期の緊急手術は禁忌である。

9 前立腺がんについて正しいものをどれか。

a 脳は好発転移部位である。

b 60才以下の男に多い。

c アンドロゲン依存性である。

d 95％が扁平上皮癌である。

e 腫瘍マーカーはCA19ー9である。

10 精巣腫瘍について正しいのはどれか、２つ選べ。

a 有用な腫瘍マーカーはない。

b 好発年齢は20歳代から30歳代である。

c 有痛性陰嚢腫大が主訴であることが多い。

d 肺転移症例の5年生存率は30％以下である。

e セミノーマは精巣腫瘍の最も多い組織型である。

11 膀胱の蓄尿促進は交感神経（下腹神経）が関与する。膀胱体部の収縮は副交感神経（骨盤神経）支配である。中脳毛様体では両者の切り替えを行っている。排尿困難の副作用がある薬剤は何か？

a 抗コリン薬

b 三環系抗鬱薬

c α受容体遮断薬

d β受容体遮断や遮断薬

e 副交感神経刺激薬

12 CKDの降圧の第一選択薬は？

a ARB

b カルシウム拮抗薬

c αブロッカー

d βブロッカー

e ループ利尿薬

13 慢性腎不全の管理について正しいものはどれか。

a 塩分 12g/day

b 生野菜、果物の摂取

c 水制限 500ml/day

d 蛋白制限 40g/day

e リンの摂取

14 多発性骨髄腫の腎障害について、正しいものはどれか。

a AAアミロイドーシスを合併

b 尿中BJPは通常の試験紙で検出される。

c 多発性骨髄腫の約20％に腎障害をきたす。

d 鎮痛剤・造影剤により急性腎不全を発症する。

e 骨髄腫腎はネフローゼ症候群を呈する。

15 .20歳男性 肉眼的血尿により来院。2週間前に38℃の発熱、咽頭痛をきたしたが、抗菌薬とNSAIDsを処方され、5日前に軽快した。2日前より眼瞼浮腫、排尿の頻度が少なくなった。

血圧150/100 脈拍80/分 整 眼瞼結膜貧血無し。胸部聴診異常無し。浮腫は眼瞼と下腿に。

尿検査で糖（－）蛋白（＋）潜血（3＋）

尿沈さ 赤血球50～100/視野、赤血球円柱、顆粒球円柱を認める。

血液生化学検査 アルブミン4.0g/dL 尿素窒素3.5mg/dL クレアチニン 1.0mg/dL 腎生検PAS染色と電顕像を下に示す。

 （2枚あり。1枚は光顕像で、もう1枚は電顕像。）

a 膜性腎症

b 急性糸球体腎炎

c 尿細管間質性腎炎

d アミロイド腎

e 微小変化型ネフローゼ症候群

16 微小変化型ネフローゼ症候群について誤りはどれか。

a 肉眼的血尿は呈する。

b 再発がみられる。

c 急性の経過で発症する。

d 腎機能の予後は良好である。

e たんぱく質の選択性は良好である。

17 IgA腎症について正しいものを選べ。

a 血尿は示さない

b 低補体血症をきたす

c 高血圧は予後不良因子になる

d 5年後に50％が慢性腎不全になる

e 原発生糸球体腎炎の5％をしめる

18 CKDについて正しいものを2つ選べ。

a 微量アルブミンが3ヶ月以上続くとCKDである。

b GFR＜70ml/min/1.73m^2

c 心血管障害のリスク因子である。

d

e ループス腎炎を含まない。

19 腎腫瘍の脂肪成分が検出するのに有用でないものを2つ選べ。

a 腹部単純X線撮影

b 腹部超音波検査

c 単純CT

d 腹部MRI

e 腎血管造影

20. 25歳女性。2週間前に咽頭痛と発熱のため近医を受診したところ、

扁桃炎と診断され、抗菌薬と非ステロイド性消炎鎮痛薬を処方された。1週間内服し扁桃炎は改善したが、3日前から全身に皮疹が出現し、全身倦怠感が生じたため、内科を受診した。既往歴に特記すべきことはない。

全身所見；血圧120/70 体温37.0℃ 全身に皮疹あり。胸部聴打診に異常を認めず、

CVA叩打痛を認める。

尿所見；比重1.005 蛋白尿（±） 潜血（－） 糖（－） 白血球 50/HPF 赤血球 0～5/HPF

まず行うべき検査はどれか。

a ガリウムシンチグラフィー

b 腹部超音波検査

c 腹部単純X線

d 腹部単純CT検査

e 腎生検

21 次の糸球体病変はどれか。

メサンギウム増殖。半月体型性は無し。血管の全層性血管炎無し。

a ループス腎炎

b シェーグレン症候群

c ウェーゲナー肉芽種

d グッドパスチャー症候群

e チャーグ・ストラウス症候群

22 次の糸球体病変はどれか。（テキストのMPAの写真と同じ。）

a 結節性多発動脈炎

b 顕微鏡的多発動脈炎血管炎

c シェーグレン症候群

d 溶血性尿毒症症候群

e 抗リン脂質抗体症候群

23.20歳男性。生来健康。3日前に両足首の皮膚に点状出血斑があることに気がついた。昨日、入浴時に点状出血斑が両膝まで広がっていた。今朝、尿が赤黒いことに気がつき来院した。尿タンパク（2＋） 尿潜血（3＋）血清クレアチニン 0.8mg/dL 。

下肢の写真と腎生検蛍光抗体法のIgA染色とを示す。

次のどれか。（テキストのHSPの下肢の写真と同じ。）

a 溶血性尿毒症症候群

b アレルギー性紫斑病

c コレステロール塞栓症

d 抗リン脂質抗体症候群

e クリオグロブリン血症に伴う糸球体腎炎

24 .25歳女性。生来健康。6日前より発熱、下痢をきたし、5日前より血便を認めたため近医を受診した。点滴を受け抗菌薬を5日間もらい、2日間服用したところで回復した。昨晩から言動が普段と異なる。今朝から痙攣を起こしたため救急車で来院した。皮下出血斑があり、血小板 3万/μl 、血清クレアチニン 2.8mg/dL。

末梢血赤血球を示す。

次のうちどれか。（テキストp51 図3）

a ループス腎炎

b 顕微鏡的多発血管炎

c 溶血性尿毒症症候群

d コレステロール塞栓症

e クリオグロブリン血症性血管炎

25.20歳男性。昨年の健康診断では尿蛋白、尿潜血ともに異常を認めなかった。このときの血清クレアチニン 0.7mg/dL。10日前から感冒症状が出現し、3日前から浮腫を認め、今朝、肉眼的血尿があったため来院した。尿蛋白（3＋）尿潜血（3＋）血清アルブミン 3.6g/dL 血清クレアチニン 1.7mg/dLであった。

次のうち正しいものを2つ選べ。

a 慢性腎不全

b 急性腎炎症候群

c 慢性腎炎症候群

d 急速進行性腎炎症候群

e ネフローゼ症候群